



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第45回「愛機は改造機」

【マニア登場】

どのような分野にもマニアとよばれる人たちが存在する。自動車マニアや写真マニア、オーディオマニア、そしてパソコンマニアである。もっとも、最近の日本語では「パソコンおたく」と呼んだ方がわかりやすいかもしれない。

どのマニアの分野にも雑誌があり、いずれも相当の発行部数を誇る。試しにパソコンマニアの愛読誌を見ると、パソコンを自作するための部品の記事が満載されている。そればかりでなく、一般の市販品の評価記事も掲載されている。その観点はさすがにプロ的で鋭い。

雑誌の中で面白いのは、市販機の改造記事である。CPUを換装する。この換装というのは「部品を交換する」という意味だ。ハードディスクも交換して容量を増やす。メモリーを増設するのは特に改造というほどのこともなく、記事の中でも常識扱いである。

市販のデスクトップ機を改造するのは、ケースの中の空間に余裕があるのだから、記事の写真を見ているだけでもなんとなく安心できる。さすがにマニアの記事だと感心するのは、ラップトップ機の改造記事である。まずケースを開けるところから秘術がある。ハードディスクも寸法に制限があるので、換装する場合には、置き換え可能な部品に限られる。

【改造機は老犬の如し】

そんなに改造して、何か面白いかということ、そこがマニアの神髄である。CPUを交換すれば速度が向上するが、とても10倍までは上がらない。ディスクの容量も2倍、4倍というところだ。それでもなおマニアは改造を続ける。改造すればメーカーの保証は無効となる。実際に改造に失敗する例だってある。

私は最近、マニア好みの「Chandra2」というラップトップ機を使用している。そもそも購入した時から友人のマニア殿のご推薦であったのだが、これを携帯していると仲間が増える。私のマシンは今のところ無改造なのだが……。

マニア諸兄との交流を通して感じるのは、マシン改造は一種の自己表現である。つまり改造機は自己の一部となる。ちなみに古いマシンを使い続けている人に聞いてみるがよい。そこには何らかの愛着がある。



これはカーマニアでも同じことである。自分で改造した自動車は滅多に捨てられない。私自身は自動車の改造をする程の腕前はないが、自転車のリアディレーラー（つまり変速機）を付け替えただけで、妙に自転車に愛着がわいた経験がある。

これは結構面白い感覚なのだ。もちろん改造を見越した商売があり得る。

【卵を入れないと完成しないホットケーキ】

人間は「自分で手を加えたもの」に愛着を持つ。これを利用した商法の好例として有名なのが、卵を入れないと完成しないホットケーキミックス（粉）である。水で溶くだけで使える粉のほうが明らかに時間が節約できるのだが、なぜか卵を入れなければならない粉の売り上げがよかったというのだ。

そういえば、パソコン用のプログラムだって利用者の名前を入れさせたり、個人別の設定を可能にしたりしている。あれが面倒だと思っているうちは、いわば正常な感覚だけれども、しだいに設定に凝ってくる。そうすると、マニアの段階に近づくわけだ。

中にはキーボードの設定を変える人もいる。UNIXに慣れている人は、「Caps Lock」と「Ctrl」を入れ替えたり、「半角/全角漢字」のキーを「ESC」にしたり、「Delete」と「Back Space」を入れ替えてしまう。こうすると、他人に貸すのは混乱の元。「貸してくれないのはケチ」と呼ばれても、それを耐えるのがマニアの道である。

そこまで徹底しなくても、ラップトップの蓋にシールを貼ったり、持ち運び用にキルトのケースを作ったりする人もいる。まるで幼稚園のお弁当袋のようにになっているパソコンも見かけるが、それなりに精神的には健全なような気もする。なんたってパーソナルコンピュータというくらいだもの。個性を活かすのが本来の姿だ。

【ネットワークは改造可能か】

インターネットの偉大な点は、人間と人間とを結び付ける感覚を提供したことにある。その意味では、スパコンを接続するよりもパソコンを接続するほうが社会的な意義が大きい。

そのパソコンは、まさにパーソナルな感覚を提供しつつある。それではネットワークはどうかと見ると、これは自由度があるようなないような、判然としない状況である。

自由なのは、ウェブのページで情報を提供するような発信の仕方である。つまり新しいサービスを個人でも提供できるのだ。しかし、ネットワークの構造を個人で改造するのは難しい。分散システムといわれるインターネットではあるが、ある本質的な部分において集中的に管理され、改造を拒むものがある。将来のネットワークの姿を描くビジョンはいろいろあり得るが、1つのポイントはユーザーから見た自由度がもっと向上することにあると思う。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp